

KSKR

No. 194

2014
Sep.

9

奈良県自閉症協会 NEWS

きずな

The Kizuna

<http://www.eonet.ne.jp/~asn/>

発行人：

関西障害者定期刊行物協会

編集人：奈良県自閉症協会

支部長&事務局：河村舟二

〒639-1005

大和郡山市矢田山町 84-10

購読料1部 100円

会員は会費に含まれています。

最近、教育再生の
実行が叫ばれ、授業
改革等（アクティブ・

アクティブ・ラーニング

ラーニング等）の教育の質を実現することが打ち出されました。いよいよ平成27年度から、教職員の定数改善が10ヵ年計画で行われるようです。自閉症をはじめとする発達障害の児童への教育については、専門性を持つスタッフを配置することや、個別の教育課題への対応する特別支援教育の面で教育内容の質を期

待したいところです。やはりうたい文句ではなく、目標実現するためには、国として、このように人件費の予算化が是非とも必要なのです。今後いつかは、学校教育法第27条に自閉症者の文言を加え、実質的に自閉症へのよりきめ細やかで柔軟な、専門的教育が全国でできる体制を取ってもらいたいと考えます。現

在では「特別支援教育は視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、肢体不自由者又は病弱

者（身体虚弱者を含む）」となっており、我が国の教育法では明確には自閉症の文言はうたわれていないのです。その理由は、やはり、大きな教育的予算がかかるからなのです。

（河村）

全盲の女子生徒への暴行傷害事件について

埼玉県盲学校に通う全盲の女子生徒が登校途中に何者かに足を蹴られた事件が起きました。多くの人が、怒りを通り越した無念さと衝撃を覚えたのではないのでしょうか。そして、障害のある人たちは、言いようのない不安と恐怖にさいなまれたに違いありません。日本障害者協議会はこの事件の再発防止と、そのための必要な手立てを社会全体で考えていくことを強く願うものです。

被害にあった女子生徒は、9月8日午前8時前、通学のため、JR川越駅コンコースの点字ブロックを白杖（はくじょう）を使って歩いていたところ、正面から来た人が白杖に踏み転倒、その後、背後からひざ

裏を強く蹴られたのです。加害者は終始無言だったため全盲の女子生徒には性別さえわかりませんでした。川越駅には、この加害者を探す立て看板も立てられたようですが、自ら名乗り出て当時の真相を明かして卑劣な行為を詫び、女子生徒に謝罪すべきです。精神的なダメージを受け、心身ともに傷ついた女子生徒が一日も早く傷が癒えるのを願うばかりです。

女子生徒は「以前から杖に踏く人はいたが暴行を受けたのは初めて。蹴られたときは何が起きたかわからず、怖かった」と話すように、事件以降、外出に強い恐怖心を抱いたにもかかわらず、後輩たちが同じような経験をしないようにと勇気あ

る決意をもって被害を公にしたのです。そして、「白い杖は視覚障害者にとって目の代わり、点字ブロックは道を歩くための道しるべであることを理解してほしい」、合わせて、社会の一員として平等に認めてほしいと訴えています。

この女子生徒の訴えには、視覚障害に限らない、すべての障害のある人のおかれた現状、社会の課題が映し出されています。障害のある人が社会生活を営むためには、なんらかの支援が必要になります。全盲の女子生徒にとっては、白杖と点字ブロックは、安全に歩行するための「命綱」そのものです。肢体障害の人にとっての介助者や車いす、聴覚障害の人にとっての手話通訳や要約筆記

なども同じだと思います。

通学したり、通勤したり、友達と会っておしゃべりするというごく当たり前の行為が障害のある人にとっては容易ではありません。当たり前を実現するためには、今の社会では大きな障壁にぶつかる場合が少なくないのです。障害のある人への社会全体の理解が大切であることは言うまでもありませんが、個々の障害特性や年齢、性別などに応じた障壁を減らすための具体的な支援がとても重要になります。社会の一員として認めてほしいとは、社会の側がそれらの支援策の必要性を十分に理解することに他なりません。

この事件は、障害のある人への社会の理解が進んでいないことの表れであり、今回の被害も実は氷山の一角に過ぎません。ツイッターでは「点字ブロックが盲人のためのものだとは知らなかった」「盲人が我が

物顔で歩いていて不愉快」といった発言も見受けられ、視覚障害者のことを知らず、差別感をもつ人がまだたくさんいる現実があります。また、駅のホームで複数回にわたって暴言を吐かれた上に電動車いすのタイヤを蹴りつけられる経験をした当法人の役員もあり、市民の理解はまだまだと言えます。

去る7月には同県で盲導犬が傷つけられた事件が報じられたばかりですが、これらの行為や事件はすべて根は同じです。その背景には、障害や障害のある人に対する無知・無理解があり、これと関連しながら、思いやりや人権意識の欠如があるように思います。

世の中には、様々な人がいます。その様々な人によって社会が成り立つためには、違いを認め合い、理解し合うことが大切になります。相互理解が深いほど社会の成熟度は大き

くなるのであり、すべての人が暮らしやすくなるのではないのでしょうか。

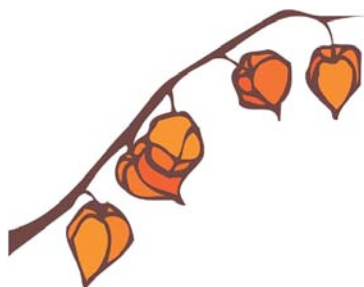
今年1月、日本は障害者権利条約を批准し、障害のある人の権利保障の推進を世界に向かって宣言しました。国内においては、障害者基本法の改正や障害者差別解消法を制定し、障害のある人の普通の暮らしの実現に大きな後ろ盾を得ることができました。批准された障害者権利条約や新たな法律をもっと社会に周知・浸透させていかなければなりません。

日本障害者協議会は、重ねて今般の事件を深く憂い、再発されないことを強く願うものです。そのためには、社会の様々な立場の人が障害のある人思いをはせるように、そして障害のある人の声が社会に届くように、ひいては、すべての人が安心して暮せるインクルーシブな社会を

めざして活動を継続していくことを表明するものです。

2014年9月12日

特定非営利活動法人日本障害者
協議会
代 表 藤 井 克 徳



徳島での上映会 を有難うございました！！

映画、後半だけしか拝見していませんが、とてもとても良かったです。

というか、驚きでした。

実は、私は、あの映画に出てくる親子のように、息子とチャレンジしてきました。

息子は、言葉がない、しかも知的に最重度の自閉症ですが、文字を教え、数を教え、今では文字が読み、書け、算数は足し算、引き算、割り算、掛け算、小数、分数を理解し、料理を作り、買物をします。そして、今は製図を学び、小さな子ども達のための算数教材を作成を手伝ってくれています。

通勤には、JRとバスを使い、片道2時間かけて事業所へ一人を通えるまでになりました。

彼を教育し始めたのは5歳の時でした。

泣きわめく彼に覆いかぶさるようにして座らせ、鉛筆を持たせ、文字や数字を教え始めた時には、「こんなに重い子に数字や文字を教えて何になる」「あんなに嫌がっているのに可愛そう」「親が医師だから高望みしている。教育ママなのね。」「だから、あんなに癪癪持ちで、イライラした子になっている」など、非難の嵐でした。

暴れて大泣きしている子を引きずるようにしてマラソンを始めた時には、虐待のように見られました。

でも、その彼は、高等部卒業時に、トライアスロンができるまでになりました。（といっても、3日かけてのトライアスロンですが。スイム

3 km、バイク180 km、ラン42.195 km)

でも、世の中の流れは、「自閉症を理解し、彼らを支援する。」という動きがメインで、「させる」「教えぬ」「鍛える」ということはむしろ非難されることが多いです。

だから、この映画にはびっくりしました。まさに、私が皆さんにお伝えしたいことです。

自閉症という障害は、私は「個性」というには余りにも深刻な分かなり辛さを持ち、深刻な「障害」をもったものだと思っはいますが、それ

以上に、素晴らしく輝くものを持っています。私にはない純粋さと、優しさ、誠実さ、根気強さ、

裏表のない潔さを持ち、人間臭さのない爽やかな子ども達です。磨けば磨くほど、可能性が驚くほど開けていきます。

それを、映画は伝えて下さっていました。

本当に嬉しい感動でした。有難うございました。

私自身は、これまで、そうした教育をしてほしいと学校や社会に訴えていたのですが、訴えることに虚しさを覚え、今年、「トモニ発達支援所」というのを立ち上げて、自分の手で子ども達を教育することを始めました。

まだまだ始めたばかりですが、苦勞があっても自分の手でやっていけることが嬉しいです。

私の背中を後押しして下さる映画でもありました。

本当に有難うございました。

是非、また徳島で上映をお願いします。

徳島新聞

2014年(平成26年)8月29日 金曜日

ラジオ・芸能 (16)

徳島市出身の映像作家

床波ヒロ子さん(東京、写真)が監督を務めた、自閉症をテーマにしたドキュメンタリー映画「そ



そばにいるよ!〜自閉症(オーティズム)と車椅子の監督」が、30日午後6時半から徳島市ふれあい健康館で上映される。

ドキュメンタリー映画「そばにいるよ!」

映像作家・床波さん(徳島市出身)監督

あす徳島市で上映

「そばにいるよ!」は、映画監督の故・横坪多鶴子さんの遺作「星の国」(2009年)の製作現場に密着した映像と、自閉症児の家族への取材で構成されている。床波さんと親交が深かった横坪さんは、若者の性や老人介護などをテーマに作品を撮り続け、11年9月に亡くなった。「星の国」は、作家の門野晴子さんが自閉症の孫2人を描いたノンフィクションが原作。自閉症児と家族、教育現場の在り方を見つめ直す内容で、全国300カ所ですり映されている。



ドキュメンタリー映画「そばにいるよ!〜自閉症(オーティズム)と車椅子の監督」の一場面

「自閉症には、早く気づいて療育することと周りの支援が欠かせない。障害についてあまり知られていないため、自閉症児とその家族は『しつけがなっていない』と怒られたり、いじめられたりすることがある」と自閉症をめぐる現状を憂い、「周りが障害を理解することで、自閉症の人たちが生きやすくなる。映画を見て、自閉症への理解と支援を深めるきっかけにしたい」と話している。

(高崎扶美子)

大人千円、中学生700円、小学生500円。問い合わせは、製作会社の北青山三丁目(電話090-6168077)。

自閉症理解と支援を

抜き取ってご利用いただけます

す。さらに、床波さんが「星の国」上映会の様子も自閉症児とその家族に取材した映像を加えて、自閉症児やその家族と社会の関わり方を考えさせ掛けている。

密着映像は、リウマチが進行して車椅子で撮影された横坪さんが作品に込めた信念を映し出す。横坪さんが亡くなった後、美馬市の協町劇場で上映された「星の国」の上映会には、多くの観客が参加した。

自閉症理解と支援の為に 勉強会

第1回目 好評をいただき終了！！

平成26年度 社会福祉法人 社会福祉事業研究開発基金助成「発達障害児子育て支援スキルアップ事業」自閉症理解と支援の為に勉強会 5回連続講座の第1回目

「自閉症の人の未来のために！ 自閉症の特性と支援の原則」をテーマに無事終了いたしました。

今回は自閉症 e サービス京都のスタッフの方にご協力を頂き、5回連続の流れで講座を計画致しました。

①自閉症理解と支援の総論 ②評価と個別プログラム ③構造化 ④コミュニケーション ⑤自立した生活と可能な限り、続けて聞いて頂きたい内容となっておりますが 単回のみのご参加でも何度も基本的な

支援基礎は繰り返し話されるのでご都合のつく回だけのご参加でも大変分かり易い講座となっております。

第1回目は自閉症 e サービス代表の中山清司先生を講師としてお招きして参加者の方から大好評な感想を頂きました。

中山先生には これまでも 何度も奈良県での講座に講師としてお話を頂き、今年は別助成事業にて開催の夜の勉強会にて先生には複数回、話しして頂きました。リピーター参加者の方も多いです。（夜の勉強会は最終10月6日（月）行動マネジメント・質疑と応答を残すのみとなりました。これも中山先生です。只今、夜の勉強会最終の質問を受付中です。夜の勉強会申し込みアドレス先まで）

今回第1回のみ申し込みで参加された方からも 2回目以降も追加申

し込みをして下さった方が複数おられ、お話の内容の重さを体感して頂けたのかと思っております。

是非 2回目以降の講座にも ご都合をつけての皆様のご参加をお待ち致します。

自閉症の支援をしていく為には1人1人の評価が 不可欠となります。14日の中山先生の講座にて 実際に評価セッションをされている映像も紹介して下さいましたが 評価をしてみて 予想していた評価とかけ離れた結果が出る事も多い事に驚かれた方も多かったのではないのでしょうか？ 「評価と個別プログラム」の大切さを是非講座に参加して下さい、実感してみてくださいませ願いたします。

第2回講座 「評価と個別プログラム」

日時 10月5日（日） 13：40

～15：50

場所 奈良商工会議所 地下AB会議室

講師 山根和史氏（萩の杜 副施設長）

以下に14日に 参加下さった方からのご感想の1部をご紹介しますいただきます。

教員

○DVDを観ながらの説明は具体的で大変わかりやすかった。（複数回答）

○自閉症児の基本的な事、学校の児童にぴったり当てはまることなどお話しされていて良かったです。

○具体例をふまえ、説明して下さり、わかりやすかったです。部分的に掘り下げてお聞きしたいことがありましたが、今後の研修で学ばせていただきたいと思います。

○説明が丁寧でわかりやすかった。

○自閉症の方々のビデオが印象的で

した。

○周りの環境を変えることで自閉症の方が、仕事や生活をしやすくなっている様子が良かった。

○困ったときに変な行動をする。が理解できた。その子の困った信号を見つけやすいですね。

○自閉症の特性を理解して、支援者のやり方を変えることが本当に大切だと感じた。

○自閉症の内容を理論と実践を交えながら説明されていてとてもわかりやすかった。

○自閉症の事例（当事者）も取り上げられていて、具体的で理解が深まりました。

○対象者を変えるのではなく、周りが対象者を理解し支援の方法を考えること。「出来ることを生かし出来ないことを補う」ということを念頭において関わっていきたいと思いました。

○見通しを保たせながら違う課題に取り組みさせるなど工夫していた点が参考になった。

福祉関係者

○DVDを観ながらの説明は具体手で大変わかりやすかった。（複数回答）
○アスペルガーの当事者の話が興味深く観させていただきました。

○特に私が担当している利用者さんはMRやCPとの合併をされている方が多いです。「その他の特性」で詳しく述べられたことが支援の見直しのきっかけになる可能性があるかもしれません。

○自閉症の方の基本的な事が理解できたような気がします。

○自閉症の人の特性について細かく学ぶことが出来ました。

○非常に理解が深まり良い研修だった。

○今回の話のアプローチは自閉症スペクトラムの方に対してのみ有効な

のか？知的障害に対してのアプローチは違うのか？詳しく教えていただきたいです。

○具体例をいろいろ話してくださったので自分の職場の利用者の顔が浮かんできて、日頃の取り組みを見つめ直す機会になりました。

○ビデオ等を多く使っていて当事者の様子がよくわかってよかった。支援者にとっても文字だけの情報より映像を観る方がよく理解出来ます。

○具体例が多くわかりやすかったです。支援の方向性、職員間でモヤモヤを感じていましたが、心の持ち方が（対応の違い）自分が感じていた違和感が正解だとわかり「自分が間違ってたかった」とすっきりしました。

○スタッフ間で共有しなければならぬ自閉症の方への関わり方、特性などよく理解出来た。

○一人一人の長所を伸ばしてあげた

い。苦手な事を補う事を考えて行きたい。

○水遊びが好きなのですが、してもいい時、してはいけない時をどのように指導すればいいのか伺いたかった。

○やり方を見直すと本人のお顔の表情が全く違ったのが印象的でした。

○当事者様の困ったこと→支援の方法の提示の方法で落ち着いて過ごすことが出来る。

保護者

○じっくり勉強をする機会を持てて良かったです。VTRなどの例もありとてもわかりやすかったです。

○再度聞くことによってより理解できました。

○具体的な支援の方法

○構造化、ワークシステム、スケジュールの具体例が興味深かった。

○一人一人にあった支援をするという事はわかったし、成功したDVD

も観てわかった。しかしその支援の仕方は人によって違う。では自分の子どもには何がどうあっているかわからない。DVDの中で歯磨き、せんたくたみが出来た例があったが、どれくらいの時間をかけて教えて出来るようになったのだろうか。

○学習スタイルの違いということがよくわかった。

○「ちゃんとしなさい」「ちょっと待って」本当によく使ってしまう言葉です。うちの子はよくしゃべるし、理解出来ていると思っているのが誤解であるということがわかって、私自身が変わらなければと思いました。

○何となくこれまで勉強してきたことをわかりやすく復習することが出来た。

○当事者の意見も聞けて参考になりました。

○出来ないことに注目するのではな

く出来ることを探す。

○さぼっているように見える。でも実は何をして良いのかわからないから。何をしたらよいのかを具体的に伝える。

その他

○想像力について別のところで聞いたばかりの事で、よりわかりやすかった。

○先生の話がわかりやすくこちらの指導に役立つ方向になりました。

○自閉症の障害は（中枢神経）という脳における情報処理過程の違いという事がわかり勉強させてもらいました。私自身関わる上で本人に対する気持ちを向上していきたい。

○自閉症について理解出来た。特に学習スタイルについては勉強になりました。

○環境設定を変えることで正しい行動に導く事が出来ることが興味深かったです。自閉症についての基礎

知識と再確認できて参考になりました。

○症例のビデオがとてもわかりやすかったです。

○まったく自閉症について無知でしたがこの講座に参加して、よく理解することが出来ました。

○基本的な事を教えていただけて良かったです。



教育再生の実行に向けた教職員指導体制の整備

～ 新たな定数改善計画(案)(10ヶ年)の初年度分 ～

(平成27年度 義務教育費国庫負担金概算要求)

平成27年度要求額 1兆5,258億円(対前年度▲64億円)



・教職員定数の改善	+59億円(+2,760人)
・教職員定数の自然減	▲65億円(▲3,000人)
・教員給与の改善	+2億円
・教職員の若返り等による給与減	▲60億円

▼ 趣旨・内容

- 小・中学校における授業革新等(アクティブ・ラーニング等)の教育の質の向上を実現するため、これまでの少人数教育や指導力向上への取組を踏まえ、きめ細かな指導体制の整備を図っていくことが重要。

(参考)「今後の学制等の在り方について」教育再生実行会議第五次提言一抜粋一

「課題解決・双方向型授業等にも対応した質の高い教育を実現するため、教職員配置の充実を図る。」

- また、学校を取り巻く環境が複雑化・困難化するとともに、様々な教育課題への対応を迫られる中、教員が授業など子供への指導により専念できるようにするためにも、教員に加えて多様な専門性を持つスタッフを配置し、一つのチームとして学校の教育力を最大化(チーム学校)。

併せて文部科学省において、校務及び教職員の業務分担を抜本的に見直すとともに、教育委員会など学校関係者にも積極的な対応を促していく。

- これらを踏まえ、10年後の学校の姿を見据えた新たな教職員定数改善計画(案)(10年間)を策定※し、教員の質と数の一体的な強化を進める。その初年度分として、教育の質の向上やチーム学校の推進等に必要な2,760人の定数改善を計上。

《義務標準法の改正を予定》 ※追加的な財政負担を要することなく必要な定数改善を実施

▼ 27年度要求の概要

○授業革新等による教育の質の向上 580人

- ・課題解決型授業(アクティブ・ラーニング)の推進:300人
- ・授業革新に向けた研修の充実:100人
- ・小学校における専科指導の充実:150人
- ・学制改革への対応(小中一貫教育の充実):30人



○チーム学校の推進 1,010人

- ・学校マネジメント機能の強化:230人(教頭・主幹教諭等の充実)
- ・学校の事務機能の強化:500人
- ・養護教諭・栄養教諭等の配置充実:130人
- ・専門人材の配置充実:150人(学校司書、ICT専門職員、地域連携担当職員等の充実)

○個別の教育課題への対応 700人

- ・家庭環境や地域間格差など教育格差の解消:200人(学力保障に必要な教員の加算措置)
- ・いじめ等の問題行動への対応:190人
- ・特別支援教育の充実:310人

○学校規模の適正化への支援 470人

- ・学校統合に係る支援:350人
- ・複式学級編制の標準の引き下げ:120人

【復興特別会計】
被災した児童生徒のための学習支援として
前年同(1,000人・21億円)の加配措置

☆教員給与の改善

- ・部活動手当等の改善:3,000円→3,600円(H28.1～)



新たな教職員定数改善計画(案)(10ヶ年(H27～H36))

計画(案)策定の趣旨・概要

- 小・中学校における授業革新等(アクティブ・ラーニング等)の教育の質の向上を実現するため、これまでの少人数教育や指導力向上への取組を踏まえ、きめ細かな指導体制の整備を図っていくことが重要。
(参考)「今後の学制等の在り方について」教育再生実行会議第五次提言―抜粋―
「課題解決・双方向型授業等にも対応した質の高い教育を実現するため、教職員配置の充実を図る。」
- また、学校を取り巻く環境が複雑化・困難化するとともに、様々な教育課題への対応を迫られる中、教員が授業など子供への指導により専念できるようにするためにも、教員に加えて多様な専門性を持つスタッフを配置し、一つのチームとして学校の教育力を最大化(チーム学校)。
併せて文部科学省において、校務及び教職員の業務分担を抜本的に見直すとともに、教育委員会など学校関係者にも積極的な対応を促していく。
- これらを踏まえ、10年後の学校の姿を見据えた新たな教職員定数改善計画(案)(10年間)を策定し、教員の質と数の一体的な強化を進める。今後10年間で、教育の質の向上やチーム学校の推進等に必要な31,800人の定数改善を実施。《義務標準法の改正を予定》

授業革新等による教育の質の向上 15,500人

○課題解決型授業(アクティブ・ラーニング)の推進 (10,500人)

従来のような受け身型の授業から、子供達が主体的・協働的に学ぶ課題解決型の授業への転換を図る。

○授業革新に向けた研修の充実 (1,000人)

○小学校における専科指導の充実 (3,700人)

○学制改革への対応(小中一貫教育の充実) (300人)



チーム学校の推進 6,950人

○学校マネジメント機能の強化 (2,200人)

学校マネジメント体制の確立に向け、教頭・主幹教諭等の配置の充実

○学校の事務機能の強化 (3,000人)

○養護教諭・栄養教諭等の配置充実 (1,300人)

○専門人材の配置充実 (450人)

学校司書、ICT専門職員、地域連携担当職員等の専門的な知見を有するスタッフを配置



個別の教育課題への対応 7,000人

○家庭環境や地域間格差など教育格差の解消 (2,000人)

学力保障に必要な教員の加算措置を実施

○いじめ等の問題行動への対応 (1,900人)

○特別支援教育の充実 (3,100人)

学校規模の適正化への支援 2,350人

○学校統合に係る支援 (1,150人) 統合前1年、統合後5年間支援

○複式学級編制の標準の引き下げ(1,200人) 小学校16人→14人・中学校8人→4人

改善計画の進め方

- 追加的な財政負担を要することなく必要な定数改善を実施。 (単位:人)

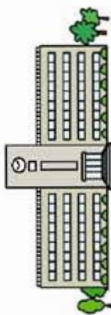
	H27～H36	うちH27要求
定数改善(A)	31,800	2,760
授業革新等による教育の質の向上	15,500	580
チーム学校の推進	6,950	1,010
個別の教育課題への対応	7,000	700
学校規模の適正化への支援	2,350	470
自然減(B)	▲ 40,700	▲ 3,000
差引き(A+B)	▲ 8,900	▲ 240



補習等のための指導員等派遣事業（平成27年度概算要求額：41億円 対前年度8億円増） ～多彩な人材の積極的参加による地域ぐるみの教育再生～

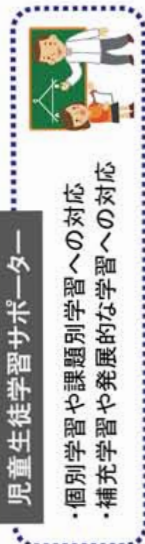
サポートスタッフ（地域のシルバーク人材、子育て中の女性、退職教職員、大学生等）の充実 約1万人

【イメージ】



教師業務アシスタント

- 教材開発・作成など教師の授業準備や授業中の補助などの支援
- 教師が行う事務業務のサポート
- 体験活動の実施・計画時における指導・助言



児童生徒学習サポーター

- 個別学習や課題別学習への対応
- 補充学習や発展的な学習への対応



多様な経験を持った地域人材等の参加によって、学校の教育力を向上
↑
「チーム学校」の構築へ

☆教員とサポートスタッフの連携により、学校教育活動をより充実！

主な補助事業の例（H26年度）

- 授業における少人数指導と放課後の学習支援の組み合わせによる、基礎学力の定着。
- 児童数の多い複式学級の学力向上のため、教員免許を有する補助員を配置し、2人体制によるきめ細かな指導を実施。
- 定時制高等学校など課題を抱える生徒の多い高等学校における少人数指導や補習指導による、学び直しの支援。

地域・学校の実情に応じて、その他の専門的な知見を持った人材の参加も促進し、「チーム学校」の構築を図る。

教師力向上支援員

- 経験の浅い教員に対する指導・助言
- 個別の教育課題に関するアドバイス
- 小学校における理科等の教材準備等の補助



学校生活適応支援員

- 小1プロブレム・中1ギャップへの対応
- 不登校・中途退学への対応
- 教育相談、家庭との連携



進路アドバイザー（高等学校）

- 進路選択への支援
- キャリア教育支援
- 高等学校と関係機関との連携、調整



《補助金の概要》

主として学方向上を目的とした学校教育活動の一環として、多様な地域人材を配置する事業経費の一部を補助

○配置人数（予算額）：10,000人（41億円）【うち義務教育諸学校分：9,000人（37億円）、高等学校分：1,000人（4億円）】

○事業主体：都道府県及び政令指定都市

○補助割合：1/3

自閉症理解と 支援の為の 勉強会

5回連続
基礎講座



奈良県自閉症協会は、自閉症や発達障害の人たちが豊かに暮らせる奈良を目指し活動を行っています。

保護者の方、幼児期からの支援者である保育士さん、幼稚園の先生から就学時の支援を担って下さる先生方、更には成人になってからの支援関係者の方々のご参加をお待ち致します。

第1回 第1回目はご参加の方からのご好評を頂き 終了いたしました！

「自閉症の人の未来のために！ 自閉症の特性と支援の原則」

第1回目の講座をビデオ収録致しました。

複数人数が集まりましたら、ビデオでの勉強会も可能ですので
ご希望がありましたら ご相談下さい。(申し込みアドレスへ)

第2回

参加費 500円 (資料代)

定員

90名

会場 奈良商工会議所 近鉄奈良駅1番出口から徒歩2分



講師 中山 清司氏
(自閉症eサービス代表)

順次開講 ▶ 開催時間はいずれも13:40~15:50

第2回 10月 5日(日)

「評価と個別プログラム」

(山根和史氏 萩の杜)

奈良商工会議所地下AB会議室

第4回 12月14日(日)

「コミュニケーション」

(岩井栄一郎氏 自閉症eサービス@京都)

奈良商工会議所地下AB会議室

第3回 11月29日(土)

「構造化」

(松尾浩久 特定非営利活動法人
HEROES理事長)

奈良商工会議所地下AB会議室

第5回 1月10日(土)

「自立した生活」

(讓田和芳氏 bonワークス西宮
管理者/サービス管理責任者)
やまと郡山城ホール・レセプションホール

第2回目以降の講座の申し込みも
継続して受付中です。
当日 申し込み無での参加も
OKです。2回目会場は 出来るだ
け公共機関をご利用の上 お越し
頂けます様お願いいたします。

申し込み・問い合わせ先

asj_nara_oomiya@yahoo.co.jp

(可能な限りメール
をお願いします)



0744-33-4755

(問い合わせの場合はメール又は留守電にメッセージを)

*講師や会場の都合により、場合によっては時間・場所等を変更することがあります

*参加費(資料代)1回につき500円です。当日会場にてお支払い下さい。

平成26年度 社会福祉法人 社会福祉事業研究開発基金助成 「発達障害児子育て支援スキルアップ事業」

主催 特定非営利活動法人 奈良県自閉症協会 HPアドレス <http://www.eonet.ne.jp/~asn/>

後援 奈良県・奈良県教育委員会・奈良県発達障害支援センターでいあ〜(予定) 自閉症eサービス

自閉症支援者の為の勉強会・ワークショップのご案内

やってみよう！ 作ってみよう！



ペアレントクラス

時間 10:00～12:00

場所 やまと郡山城ホール 会議室

①9月25日(木) (9/25参加出来ない方SKIP教室)

自分の子どもについて知ってみよう！

プチサポートブックの作成 講師ペアレントメンター

②11月13日(木)

「自立課題作成①」

宮本敦子氏（自閉症eサービス）

③12月4日(木)

「自立課題作成②」

宮本敦子氏

④1月22日(木)

「IT機器を用いた簡単支援 ポイントはここ！」

中谷正恵氏（発達障害児の暮らしをサポートする童夢代表）

⑤2月5日又は12日(木)

わが子の再評価&サポートブック作成

ペアレントメンター

定員10名(要申し込み)

参加費 5回 5,000円

単回の参加もOK！
参加費は資料冊子代金や
教材費等、必要経費のみ
☆都合の悪い回はビデオ等
で予備日設定します
場所：奈良SKIP教室

スタッフクラス

評価セミナー

会場 奈良県文化会館会議室2・3

11月7日(金) 18:15～20:15

8日(土) 9:00～16:30

講師 中山清司氏（自閉症eサービス代表）

松尾浩久氏（ディセンターHEROES所長）

子供向け・成人向け 参加募集 各10名

申込締切
10月5日

実践ケース検討会 3回コース

会場 三の丸会館

11月28日(金)、12月19日(金)、1月23日(金)

18:30～20:30

講師 大中りよ子氏

（大阪府障害者福祉事業団）

定員20名(要申し込み)



* 講師や会場の都合により、場合によっては時間・場所等が変更することがあります

ワークショップ申し込み

申し込みFAX または メール先 (可能な限りメールでお願いします)

FAX:0744-33-4755 (問い合わせの場合は留守電にメッセージを)

asj_nara_oomiya@yahoo.co.jp



メールでのお申し込みには件名「ワークショップ」とし下記の内容をお書き下さい。

携帯からもOKです。(QRコード対応機種であれば、右のQRコードからアドレスが読み取れます)

ふりがな			
名 前		保護者 ・ 支援者	
勤務先	勤務先	職 種	
	所在地		
	電 話	FAX	
自 宅	住 所		
	電 話	FAX	
Eメール			
領収書	要 ・ 不要 (いずれかに○)	領収書要の方はご希望の 領収証名をご記入下さい→	

希望受講を選んで下さい

☆スタッフクラス (保護者の方の参加もOKです)

11月7日・8日	評価セミナー	ご希望を○で囲んで下さい (子供向け・成人向け)	8000円	定員 各10名
11月28日		実践ケース検討会①	無料	20名
12月19日		実践ケース検討会②	無料	20名
1月23日		実践ケース検討会③	無料	20名

☆ペアレントクラス5回コース 定員12名 (基礎講座参加者優先で 選考させていただきます)

9月25日	9/25無理な方へ10月2日 (場所 奈良SKIP教室)	500円	まとめて 5000円 資料冊子 教材費
11月13日	ビデオ日 11月20日 (場所 奈良SKIP教室)	1500円	
12月4日	ビデオ日 12月11日 (場所 奈良SKIP教室)	1500円	
1月15日	ビデオ日 1月22日 (場所 奈良SKIP教室)	1500円	
2月5日	2/5無理な方へ 2月12日 (場所 奈良SKIP教室)	500円	

*単回参加もOK! 予備日、ビデオ日の日程・場所の追加は 複数人数集まれば ご相談に応じます。

奈良県自閉症協会・会員	会員	: 会員でない
該当するところにチェックと 記入をお願いします。 ☆支援している人の(対象)年齢()歳 ☆支援を始めて()年目 ☐ 構造化支援をしている:()年目 ☐ 支援について 悩んでいる ☐ 奈良県自閉症協会講演会・セミナーに参加した事がある ☐ 奈良県自閉症協会活動ボランティア経験あり		☐ 参加動機をお書き下さい。

*申し込みされた方には 振り込み先を お知らせ致しますので 必要金額をお振込下さい。 *今回は助成金による開催の為、通常よりお安くなっております。

★特定非営利活動法人 奈良県自閉症協会
Autism Society of Nara Japan

ホームページ <http://www.eonet.ne.jp/~asn/>
電子メール kawafune@ares.eonet.ne.jp

奈良県における自閉症児・者の福祉向上を願って、本人、家族、医療、教育
障害者福祉関係者、ボランティア、によって構成されている支援組織です。
1998年5月10日に、日本自閉症協会の全国で一番最後の支部として発足し
2008年8月22日特定非営利活動法人奈良県自閉症協会として再出発しました。

事務局: 大和郡山市矢田山町84-10
河村舟二(かわむら しゅうじ) TEL・FAX 0743-55-2763

平成27年度 障害保健福祉部概算要求の概要

◆予算額

(26年度予算額) (27年度要求額) (対前年度増▲減額、伸率)
1兆5,019億円 → 1兆6,331億円 (+ 1,312億円、+8.7%)

◆障害福祉サービス関係費 (自立支援給付+地域生活支援事業+障害児措置費・給付費)

(26年度予算額) (27年度要求額) (対前年度増▲減額、伸率)
1兆374億円 → 1兆1,394億円 (+1,020億円、+9.8%)

【主な要求事項】

	(対前年度増▲減額)
■ 良質な障害福祉サービス等の確保	9,919億円 (+ 847億円)
■ 地域における障害児支援の推進	1,040億円 (+ 143億円)
■ 地域生活支援事業の着実な実施	500億円 (+ 38億円)
■ 障害者に対する良質かつ適切な医療の提供	2,360億円 (+ 143億円)
■ 障害福祉サービス提供体制の整備	116億円 (+ 86億円)
■ 障害者の地域生活支援のための拠点等整備	4.7億円
■ 重度訪問介護などの利用促進に係る市町村支援	22億円 (± 0億円)
■ 高齢・長期入院の精神障害者の地域移行・地域定着支援の推進	5.3億円 (+ 4.1億円)
■ 認知行動療法の普及の推進	1億円 (± 0億円)
■ 自殺対策に取り組む民間団体への支援	1.3億円 (± 0億円)
■ 薬物などの依存症対策の推進	1.5億円 (+ 1.1億円)
■ 被災地心のケア支援体制の整備（復興）	18億円 (± 0億円)
■ 障害福祉サービス事業所などの災害復旧経費（復興）	8億円 (± 0億円)

※ （復興）と記載のあるものは、「東日本大震災復興特別会計」計上項目



厚生労働省 障害保健福祉部

障害児・障害者の社会参加の機会の確保及び地域社会における共生を支援するため、障害福祉サービスの充実や地域生活支援事業の着実な実施や就労支援、精神障害者や発達障害者などへの支援施策を推進する。

1 障害福祉サービスの確保、地域生活支援などの障害児・障害者支援の推進 1兆6,042億円

○ 障害福祉サービスの確保、地域生活支援等

（１）良質な障害福祉サービス等の確保 9,919億円

障害児・障害者が地域や住み慣れた場所で暮らすために必要な障害福祉サービスを総合的に確保する。

また、全ての利用者を対象としたサービス等利用計画の作成及び地域生活への移行が着実に進むよう、相談支援に必要な経費を確保する。

なお、障害福祉従事者の処遇改善を含め、障害福祉サービス報酬改定等については、予算編成過程で検討する。

（２）地域における障害児支援の推進【一部新規】（一部推進枠）

1,040億円及び地域生活支援事業（500億円）の内数

障害のある児童が、できるだけ身近な地域で、障害の特性に応じた療育などの支援を受けられるよう、それに係る必要な経費や家族支援の充実を図るために必要な経費を確保する。

（３）地域生活支援事業の着実な実施【一部新規】（一部推進枠） 500億円

意思疎通支援や移動支援など障害児・障害者の地域生活を支援する事業について、市町村等での事業を着実に実施するとともに、災害時における支援拠点の強化や文化芸術活動の推進等を図る。

（４）障害児・障害者への福祉サービス提供体制の基盤整備（一部推進枠）

116億円

障害者の社会参加支援や地域生活支援を更に推進するため、就労移行支援、就労継続支援事業所等を行う日中活動系事業所やグループホーム等の整備促進を図るとともに、障害児支援の充実を図るため、地域の障害児支援の拠点となる児童発達支援センター等の整備やきめ細やかな支援を行うための小規模な形態による体制の整備を推進する。

さらに、国土強靱化基本計画を踏まえ、自力避難が困難な障害児・障害者が利用する施設の安全・安心を確保するため、耐震化及びスプリンクラー整備を推進する。

（5）障害者の地域生活支援のための拠点等整備【新規】（推進枠） 4. 7億円

障害者の高齢化・重度化等の対応や「親亡き後」を見据え、障害者が地域社会で安心して暮らしていける社会の実現を目指し、障害者の生活を地域全体で支えるサービス提供体制を構築していくため、先駆的・先進的に取り組もうとする市町村等に対してサービス提供体制の拠点整備を図るためのモデル事業を実施する。

（6）障害児・障害者への良質かつ適切な医療の提供 2, 360億円

心身の障害の状態の軽減を図る自立支援医療（精神通院医療、身体障害者のための更生医療、身体障害児のための育成医療）を提供する。

また、自立支援医療の利用者負担のあり方については、引き続き検討する。

（7）特別児童扶養手当、特別障害者手当等 1, 562億円

特別児童扶養手当（1, 165億円）、特別障害者手当等（387億円）。

（8）障害児・障害者虐待防止などに関する総合的な施策の推進**① 障害者虐待防止の推進 地域生活支援事業（500億円）の内数**

都道府県や市町村で障害児・障害者虐待の未然防止や早期発見、迅速な対応、その後の適切な支援を行うため、地域の関係機関の協力体制の整備、家庭訪問、関係機関職員への研修等を実施するとともに、障害児・障害者虐待の通報義務等の制度の周知を図ることにより、支援体制の強化を図る。

② 障害児・障害者虐待防止・権利擁護に関する人材養成の推進 3. 8百万円

国において、障害児・障害者の虐待防止や権利擁護に関して各都道府県で指導的役割を担う者を養成するための研修を実施する。

③ 障害者虐待防止法の円滑な施行の推進 6. 4百万円

相次ぐ障害者虐待の発生を踏まえ、障害者虐待をなくすためのキャンペーンを実施し、通報・届出に関する意識の醸成等虐待防止の普及啓発の一層の促進を図る。

（9）重度訪問介護等の利用促進に係る市町村支援 22億円

重度障害者の地域生活を支援するため、重度障害者の割合が著しく高いこと等により国庫負担基準を超えて訪問系サービスの費用を支給している市町村に対する補助事業について、補助対象等を平成27年度障害福祉サービス等報酬改定とあわせて検討し、重点的な財政支援を行う。

（10）強度行動障害を有する者の支援を行う職員の育成

地域生活支援事業（500億円）の内数

強度行動障害を有する者等に対し、適切な支援を行う職員の人材育成を進めるため、

都道府県による強度行動障害支援者養成研修（基礎研修及び実践研修）を実施する。

○ 障害児・障害者の自立及び社会参加の支援等

（１）障害者自立支援機器の開発の促進【一部新規】（一部推進枠） 2.5億円

障害者自立支援機器等開発促進事業を拡充し、脳科学の成果を応用した障害者自立支援機器や、障害者レクリエーション用機器の開発を促進する。

（２）文化芸術活動の支援の推進【一部新規】（一部推進枠）

1. 3億円及び地域生活支援事業（500億円）の内数

文化芸術活動に取り組む障害者への支援として、出展機会や著作権等の権利保護等に関する相談支援などを行うモデル事業の実施や市町村等での文化芸術活動の推進等を図る。

（３）障害児・障害者の社会参加の促進 28億円

視覚障害者に対する点字情報等の提供、手話通訳技術の向上、盲ろう者向け通訳者養成等を支援し、障害児・障害者の社会参加の促進を図る。

2 地域移行・地域定着支援などの精神障害者施策の推進 233億円

（※地域生活支援事業計上分を除く）

（１）高齢・長期入院の精神障害者の地域移行・地域定着支援の推進【一部新規】

（一部推進枠） 5.3億円及び地域生活支援事業（500億円）の内数

「入院医療中心から地域生活中心へ」という基本理念に基づき、都道府県・市町村において、精神障害者の地域移行支援に係る体制整備のための広域調整及び関係機関との連携等を図る。（地域生活支援事業（500億円）の内数）

さらに、「長期入院精神障害者の地域移行に向けた具体的方策に係る検討会」取りまとめで提示された精神障害者の地域移行方策及び病院の構造改革に係る取組を総合的に実施し、その効果について検証するとともに、入院患者の約半数を占める高齢入院患者に対して、退院に向けた包括的な地域支援プログラムによる治療や支援等を行い、精神障害者の退院促進や地域定着を支援する。

また、難治性患者に対して専門的な治療を実施するために、医療機関間のネットワークの構築等による支援体制のモデル事業を行う。

（２）精神障害者の意思決定や意思表示等に関する支援の推進【新規】 0.7億円

精神保健福祉法の見直しの規定に基づき、退院等に関する精神障害者の意思決定や意思表示についての支援の在り方について検討を行うため、モデル事業を実施する。

（３）精神科救急医療体制の整備（一部推進枠）**18億円**

精神疾患のある救急患者や精神疾患と身体疾患を合併している救急患者が地域で適切に救急医療を受けられるよう体制を整備するとともに、その評価・推進を行い、精神科救急医療体制の機能の強化を図る。

（４）地域で生活する精神障害者へのアウトリーチ（多職種チームによる訪問支援）体制の整備
地域生活支援事業（500億円）の内数

精神障害者の地域移行・地域生活支援の一環として、保健所等において、ひきこもり等の精神障害者を医療へつなげるための支援や関係機関との調整を行うなど、アウトリーチ（多職種チームによる訪問支援）を円滑に実施するための支援体制を確保する。

（５）認知行動療法の普及の推進**1億円**

うつ病の治療で有効な認知行動療法（※）の普及を図るため、医療機関の従事者等の養成を行う。

※認知行動療法：ものの受け取り方や考え方に働きかけて気持ちを楽にする精神療法。

（６）摂食障害治療体制の整備**0.2億円**

「摂食障害治療支援センター」を設置し、急性期の摂食障害患者への適切な対応や医療機関等との連携を図るなど摂食障害治療の体制整備を支援する。

（７）災害時心のケア支援体制の整備**0.5億円及び地域生活支援事業（500億円）の内数**

心的外傷後ストレス障害（PTSD）対策を中心とした事故・災害等の被害者への心のケアの対策を推進するため、各都道府県で災害派遣精神医療チーム（DPAT）の定期的な連絡会議を開催するなど、日常的な相談体制の強化や事故・災害等発生時の緊急対応体制の強化を図る。（地域生活支援事業（500億円）の内数）

また、大規模自然災害発生時の心のケア対応として、「災害時こころの情報支援センター」において、DPAT 派遣に係る連絡調整業務や、心のケア活動への技術的指導を行い、東日本大震災被災者への継続的な対応や、今後の災害発生に備えた都道府県等の体制整備を支援する。

（８）心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者に関する医療提供体制の整備の推進
204億円

心神喪失者等医療観察法を円滑に運用し、心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の社会復帰の促進を図るため、指定入院医療機関の確保や通院医療を含む継続的な医療提供体制を整備する。

また、指定医療機関の医療従事者等を対象とした研修や指定医療機関相互の技術交流

等により、医療の質の向上を図る。

（９）てんかんの地域診療連携体制の整備【新規】

0. 2億円

てんかんの治療を専門的に行っている医療機関を「てんかん診療拠点機関」として指定し、関係機関との連携・調整等を実施することで、てんかんについてのより専門的な知見を集積するとともに支援体制モデルの確立を目指す。

（１０）相談支援事業所等（地域援助事業者）における退院支援体制確保

地域生活支援事業（500億円）の内数

医療保護入院者の地域生活への移行を促進する観点から、相談支援事業所等における退院支援の体制整備を支援する。

3 発達障害児・発達障害者の支援施策の推進

2億円

（※地域生活支援事業計上分を除く）

（１）発達障害児・発達障害者の地域支援機能の強化

地域生活支援事業（500億円）の内数

発達障害の乳幼児期から成人期までの一貫した支援体制の整備や、困難ケースへの対応、適切な医療の提供に資するため、地域の中核である発達障害者支援センター等に発達障害者地域支援マネジャーを配置し、市町村や事業所等への支援、医療機関との連携の機能の強化を図る。

また、都道府県等において、ペアレント・メンター（※１）の養成や健診等でのアセスメントツール（※２）の導入を促進する研修会等を実施する。

加えて、家族の対応力向上を支援するペアレント・トレーニング（※３）及び当事者の適応力向上を支援するソーシャル・スキル・トレーニング（SST）（※４）の全国的な普及を図る。

※１ ペアレント・メンター：発達障害児・発達障害者の子育て経験のある親であって、その経験を活かし、子どもが発達障害の診断を受けて間もない親などに対して相談や助言を行う人のこと。

※２ アセスメントツール：発達障害を早期発見し、その後の経過を評価するための確認票のこと。

※３ ペアレント・トレーニング：親が、自分の子どもの行動を観察して発達障害の特性を理解したり、適切な対応をするための知識や方法を学ぶこと。

※４ ソーシャル・スキル・トレーニング（SST）：子ども自身が、状況に応じてどのように行動したらよいかを、日常生活場面とは別の場所で練習すること。

（２）発達障害児・発達障害者の支援手法の開発や支援に携わる人材の育成など**① 支援手法の開発、人材の育成****1. 4億円**

発達障害児・発達障害者等を支援するための支援手法の開発、関係する分野との協働による支援や切れ目のない支援等を整備するためのモデル事業を実施する。

また、国立障害者リハビリテーションセンター等で、発達障害者の就労支援に関する支援手法の開発に取り組むとともに、発達障害児・発達障害者支援の地域マネジメントに携わる者や強度行動障害者支援に携わる者に対する研修を行い、人材の専門性の向上に取り組む。

② 発達障害に関する理解の促進**0. 5億円**

全国の発達障害者支援センターの中核拠点としての役割を担う、国立障害者リハビリテーションセンターに設置されている「発達障害情報・支援センター」で、発達障害に関する各種情報を発信し、支援手法の普及や国民の理解の促進を図る。

また、「世界自閉症啓発デー」（毎年4月2日実施）など、自閉症をはじめとする発達障害に関する正しい知識の浸透を図るための普及啓発を行う。

（３）発達障害の早期支援**地域生活支援事業（500億円）の内数**

市町村で、発達障害等に関して知識を有する専門員が保育所等を巡回し、施設のスタッフや親に対し、障害の早期発見・早期対応のための助言等の支援を行う。

4 障害者に対する就労支援の推進**18. 6億円****（※地域生活支援事業計上分を除く）****（１）工賃向上のための取組の推進****2億円**

一般就労が困難な障害者の地域での自立した生活を支援する観点から、経営改善や商品開発、市場開拓等に対する支援を行うことにより、就労継続支援B型事業所などの利用者の工賃向上を図るとともに、障害者就労施設等が提供する製品等の需要促進と普及啓発を行う。

（２）障害者就業・生活支援センター事業の推進【一部新規】（一部推進枠）**16. 6億円**

就業に伴う日常生活の支援を必要とする障害者に対し、窓口での相談や職場・家庭訪問等による生活面の支援などを実施する。

また、就労継続支援事業の利用から一般就労への移行や、加齢や重度化による一般就

労から就労継続支援事業の利用への移行など障害者の能力に応じた就労の場に移行できるようにするための支援を行う。

（3）就労支援の充実強化

地域生活支援事業（500億円）の内数

就労支援を行う事業所のノウハウの充実を図り、企業等での就労を希望する障害者への支援を強化するとともに、企業等で働く障害者のための交流や生活面の相談支援の場の提供等により障害者の就労支援を推進する。

5 自殺・うつ病対策の推進

5. 8億円

（※地域生活支援事業計上分を除く）

（1）地域での効果的な自殺対策の推進と民間団体の取組支援、普及啓発の推進

4. 3億円

都道府県・指定都市に設置されている「地域自殺予防情報センター」での専門相談の実施のほか、関係機関のネットワーク化等により、うつ病対策、依存症対策等の精神保健的な取組を行うとともに、地域の保健所と職域の産業医、産業保健師等との連携の強化による自殺対策の向上を図る。

また、自殺未遂者等へのケアに当たる人材を育成するための研修を行うとともに、全国的または先進的な自殺対策を行っている民間団体に対し支援を行う。

さらに、医療機関において、自殺未遂者が当該医療機関に搬送された際に再度自殺を図ることを防止するため、臨床心理技術者等によるケースマネジメントを行う。

・ 自殺対策に取り組む民間団体への支援（再掲）

1. 3億円

全国的または先進的な自殺の防止等に関する活動を行っている民間団体に対し、支援を行う。

（2）自殺予防に向けた相談体制の充実と人材育成

地域生活支援事業（500億円）の内数

うつ病の早期発見・早期治療につなげるため、一般内科医、小児科医、ケースワーカー等の地域で活動する人に対するうつ病の基礎知識、診断、治療等に関する研修を行うこと等により、地域の各種相談体制と精神保健医療体制の連携強化を図る。（地域生活支援事業（500億円）の内数）

第2回 療育部企画

少しだけ先を歩く
母親からのメッセージ

保護者研修会が行われました！

9月4日（木）県心身障害者福祉センターにて、講師にマスターライフオーガナイザーとしてご活躍中のたかはし ゆみ 様をお迎えしました。ユーモアのあるお話を聞いた、40名を超える参加者からは「新たな気づきがあった」「どういった内容か想像できなかったが、聞きに来て本当に良かった」などのご感想もいただきました。役員一同、今年度は親が前向きになれるような研修会や企画を考えていければと思いました。たかはし様のご了解を得て、内容の概略をお伝えします。

参加者からの感想

協会員Sさん

ライフオーガナイズとは、人生を俯瞰（ふかん・高いところから見下ろす）し、仕組化する技術という意味だそうです。簡単にいうと、目先を見るのではなく先を見通し、その人その人に合った方法で生活を楽しむにいくということだそうです。その為には、思考の整理も重要ですし、時間の整理、空間の整理が重要になってくるそうです。思考の整理では、10年後、子供や自分の生活を想像した時にどうなっているのか？また、どうなっていきたいのか？その為にはどうしていくべきか？という事を。時間の整理では、準備と計画で自分の時間を確保し、すべき事ばかりでなく、やりたい事をする為に、しない事を決める事が大切だという事を。空間の整理では、自閉症の支援の考え方でもある視覚刺激

思考と時間のオーガナイズで親も子もイキイキ！

ライフオーガナイズとは「暮らしのあらゆるコト・モノを準備・計画・整えること」。特に私はASDの子どもを持つ「お母さん」たちの思考と空間の整理を中心に活動しています。

ASDの子育てを続けていくには自分自身のエネルギーを有効に使うことが大切。自分だけではなく家族みんなが楽に暮らせる工夫をすることで子どもへの支援を継続し、お母さんも子供も楽に生きてほしいと思っています。

今回は空間・時間・思考の整理について。空間の整理では「完璧な物理的構造化を目指して『出来ない』と諦めるのではなく、まずは刺激になるものを減らしていく事から始めましょう」ということ、時間の整理

では「物事の優先順位を決めて、大事な事とそうでない事、やる事とやらない事を意識し、時間を有効に使いましょう。」、思考の整理では「自分の機嫌をうまくとる方法を見つけること。自分が何を大事にしているのかを知る事。長いターンの目標を持つ事で目の前の支援の選択肢が変わる事。自分と子供の価値観・評価は別だと意識しておくことで楽になりますよ」という話でした。お母さんがポジティブになることで新しい支援の工夫も生まれてきます。専門家みたいなすごいお母さんや特別な才能を発揮するASDの子どもを目指す必要はありません。出来る事を頑張って、いろんな事のバランスを取りながら楽に生きていきましょう。

などを整理して、構造化する事の大切さをご自分の経験を交えてお話して下さいました。

高橋さんご自身が、とても明るく、お話上手な方ですので、リピーターの方も多く、高橋さんの講演に参加されるのが今日で3回目だという自閉症児のお母様や、京都から来られているお母様もいらっしゃったよう



で、大勢でとても賑やかな講演会になりました。子供の支援の為の整理はもちろん、自分自身の気持ちや環境の整理も大切なんだと改めて考える良い機会となりました。ありがとうございました。

参加者からの感想

一般参加者の方々より 抜粋

- ・とっても参考になりました。元気になりました。緊急と重要のマトリックスはすごく役立ちそうです
- ・とても勉強になりました。ありがとうございます。時間の整理も聞いてみたいです。
- ・何度聞いても嬉しくなります。たかはしさんのパワーに触れてありがたいです。親が余裕をもって楽しい毎日を送れるようにしたいです
- ・とてもポジティブな内容で良かったです。
- ・空間の整理がまだまだできていないので刺激を減らす、どこで何をするか分かりやすくするというのが本当に大切なことがよくわかりました。「本人にとって分かりやすい」ことがあまり意識できていなかったかも。母が

楽しみを見つけて元気にいることは意識していきたいです。時間・空間・思考の整理、バランス、どれが欠けていても成り立たないですね。

- ・言われてみれば私は片付けが苦手です。刺激の少ない部屋、リビングにしたいと思いました。
- ・今日の講演をととても楽しく聞かせて頂きありがとうございました。自分が楽になるような整理を心がけ、自分自身がしんどくならない方法を見つけ、のちに子育てが大変だったけど良かったな



と思えるようにしたいです。
・感情のコントロールが勉強になりました。

・・・・☆療育部より☆・・・・
研修会当日、アンケートを配布し、8割以上の方々からご回答いただきました。
お子様の年齢が小中学校という方が大半でした。ご協力、誠にありがとうございました。



レジャー情報

第16回 日本太鼓全国障害者大会 ～心に響け「ドンドン」 フェスティバル～

開催のお知らせ

日時：平成26年10月5日（日）

場所：大東市総合文化センター

「サーティホール」にて

（大阪府大東市）

主催：（公財）日本太鼓財団

入場無料（ただし入場整理券が必要
当日会場にて配布）

・手話通訳あり

＜開催時間＞

開場 11:30

開始 12:00

終演 17:00（予定）

京都府南部木津川市を中心に活動をしている和太鼓集団「山城ノ国（やましろのくに） 和太鼓（わだいこ）」

鼓（こ）粋（いき） 絆（きずな）」が出演します！メンバーは障がい者を含む木津川市、奈良市、茨木市の子ども達で、日々練習に励んでおります。

＜参加者の保護者より

大会について＞

毎年、全国の会場をまわり開催されている大会なのですが、今回は大阪府での開催となりました。

今年は33団体が出場、制限時間の中でチーム紹介や演奏をします。聾、盲、肢体、知的（情緒含め）、ダウン症等、障害者団体や学校、介護施設やクラブ等、日本太鼓財団に加盟している団体が全国から大阪へ大集合！

みんな一生懸命頑張りますので、ぜひ観に来てください！胸に響く太鼓の音と共に元気やパワーを貰ってくださいれば幸いに思います。

大会の詳しいご案内や「山城ノ国和

太鼓 鼓粋 絆」（やましろのくにわだいこ こいき きずな）の活動についてはホームページをご覧ください。

yamashiro-wadaiko-koiki.jimdo.com/



お詫び

8月号の「燈花会灯人ボランティア」の一連の記事に写真が載っておりませんでした。お詫びいたします。
（HP版きずなにて、カラー写真が掲載されておりますのでそちらもご覧ください）



療育部企画 フラワーアレンジメント講習のお知らせ

11月の療育部会はフラワーアレンジメント講習会を行います。たまにはゆっくりと自分磨きとストレス解消にお花とふれ合ってみませんか。楽しくやさしく丁寧に教えていただきます。

日 時： 平成26年11月12日（水） 10:00～12:00 （受付9:45より）

場 所： 奈良県心身障害者福祉センター2階会議室（磯城郡田原本町宮森34-4TEL0744-33-3393）

指 導： 伊藤友子 さん

参加費： 協会員無料 会員外500円

持ち物： はさみ 持ち帰り用袋

申込先： 準備物の都合上、事前のお申込みを 療育部 横野までメールでお願いします。

申し込み締め切りは11/7といたします。tomo87-michi@docomo.ne.jp



★きずな原稿募集します★

10月号の記事のテーマは、「運動会」です。毎年やってくる、楽しいような、しんどいような運動会。
去年できなかったことができた！思ってもないハプニングなどなど、療育部松本までお寄せください。

よろしくお願いします。

松本 携帯アドレス：mama-emily0330@docomo.ne.jp

PC アドレス：ma32xs28ml@kcn.jp

着

楽

日

2014年(平成26年)8月21日 木曜日

京都新聞

車いすでメガホン 亡き監督の熱い思い

ドキュメンタリー「そばにいるよ！」

自閉症児と家族に寄り添い



映画「そばにいるよ！」自閉症・オーティズムと車椅子の監督の一面、手前が横坪多鶴子監督(北青山三丁目提供)



映画「そばにいるよ！」自閉症・オーティズムと車椅子の監督の一面(同)

2011年に亡くなった映画監督、横坪多鶴子さんが自閉症を取り上げた遺作「星の国から孫ふたり」の製作過程を記録したドキュメンタリー「そばにいるよ！」自閉症(オーティズム)と車椅子の監督が、名古屋市で開催される「あいち国際女性映画祭」で、9月6日に上映される。リウマチが悪化し、車いすでメガホンを取った横坪監督の作品にかける思いや、自閉症の男児とその母親、教師らの姿を追いつつ、「早期発見・早期療育・周りの支援」の大切さを説く。

「作品を見た人の間に支援の輪が広がり、自閉症の人々が生きやすい

社会になることを願っています」と床波ヒロコ監督、自主上映する団体も募集している。問い合わせは「北青山三丁目」03(3746)3358。

自閉症の子に優しさ注ぐ



「星の国から孫ふたり」の撮影で、車いすから指揮をとる横坪多鶴子さん(左)＝2009年、東京都内で(床波さん提供)

故横坪監督の遺志継ぐ実録

「そばにいるよ！」という障害者を理解できる映画を作れば、どれだけ自閉症の子が大変な思いをしているかが分かる。私も何かできるかなと、温かいまなざしに変わってこれれば、地域の中で生きていける。

映画冒頭のインタビューで横坪さんは思いを語る。横坪さんは高齢者の自立をテーマにした「老親ろうしん、エイズ感染を考える」「地球の子」など、常に弱者の視点に立つた作品で知られる。2011年9月に七十一歳で亡くなった。「星の国から孫ふたり」は、ノンフィクション作家の門野晴子さんが二人の自閉症の孫との生活をつづった著作が原作。感銘した



床波ヒロコさん

「星の国から孫ふたり」の撮影で、車いすから指揮をとる横坪多鶴子さん(左)＝2009年、東京都内で(床波さん提供)

横坪さんが〇九年に映像で遺志を継いだ。九月に名古屋市などで開催される「あいち国際女性映画祭」で上映される。(山本真嗣)

自閉症 生まれつき、脳の一部がうまく機能せず、ものの見方や感じ方、理解の仕方、人との関わり方、偏りがある発達障害の一つ。言葉の遅れや視覚が合っていない、極端な興味やこだわりがあるなどさまざまな形で表れる。

転機は次男が五歳の時、通った養育施設でさまざまな障害のある子や家族に出会ったこと。苦しんだ末に「障害は個性の一つ」と受け入れ、明るく笑顔で育てていく。「自分だけがではない」と力をもらった。

次男は小学二年の時、雨を見て「木が喜んでる」と初めて言葉を使った。今はその一言に感動する毎日だ。市内の小中学校で自閉症を啓発する教室も開く。「自閉症の子は困る子よりも少し、感じ方が違うだけ。映画を見て少しでも社会の理解が進めばいい」と横坪さんは「街中でいきいき」を、もしとした自





自閉症児を取り上げた劇映画『星の国から孫ふたり』の監督、槇坪多鶴子さんが死去されてからまもなく3年になります。本作は、槇坪監督の遺作となった『星の国から〜』のキャスト・スタッフとの撮影記録から始まりました。リウマチが進行し車椅子での演出を余儀なくされ、且つ2週間に1度輸血のため病院に通いながら撮影を続ける槇坪監督とそのスタッフを追い、彼女のこの映画に対する思い、更に車椅子に乗りながら全国を廻る上映活動までを追いつけます。そして取材は、自閉症を持つ家族への取材へと繋がり、槇坪監督の遺作の記録を超え、自閉症児やその家族と社会の関わり方を改めて考えさせてくれるドキュメンタリー作品になりました。

本作に登場する方々

槇坪多鶴子監督 馬淵晴子さん(女優『母のいる場所』) 小林桂樹さん(俳優『老親』『母のいる場所』)
米倉育年さん(俳優『老親』『母のいる場所』) 紺野美沙子さん(女優『母のいる場所』) 乾貴美子さん(女優)
門野晴子さん(作家『星の国から孫ふたり』『ギフティッド・チャイルド』原作者)
映画『星の国から孫ふたり』に協力してくれた皆様 株式会社パオの皆様

○ 槇坪多鶴子監督 プロフィール

1940年広島県生まれ。大学卒業後スクリプターとして映画界に入る。東京都世田谷区を拠点に、性や家庭、老いなど弱者に視点を置いた身近な問題を劇映画として描いた監督。2011年9月24日死去。

<フィルモグラフィ>

『〜いのちと愛のメッセージ〜三部作』『子どもたちへ』(1986) / 『若人よ』(1987) / 『地球っ子』(1993)
『わたしがSuki』(1998) 『老親 ろうしん』(2000) 『母のいる場所』(2003) 『星の国から孫ふたり』(2009)

<http://www.pao-jp.com/maki.html>



床波ヒロ子監督からのメッセージ ～自閉症の人たちに生きやすい環境を！～

車椅子でメガホンを取る槇坪監督の目線には、いつも弱者に対するおもしろいや優しさが溢れていました。重いリュウマチの激痛が走る身体、2週間に1度の輸血で“命”を繋ぎながら、世間に理解されず冷たい視線にさらされている自閉症児・者にスポットを当てた映画を撮った監督の信念！そんな監督の思いを受け継ぎ、多くの人たちに自閉症の事を知ってもらいたい！と本作を作りました。自閉症の事を知り、自閉症児・者とその家族に一片の優しさや思いやりをかける事で、自閉症の人達にとって生きやすい環境ができるのです。

2014年10月4日(土)よりロードショー 【タイムテーブル】 13:00/14:50/16:40 ※火曜定休

料金 一般 1,400円 学生・シニア 1,100円
世田谷区割引(世田谷区在住・勤務の方) 1,000円
ソフレ割引(16:40の回ご覧の方) 1,100円

TOLLYWOOD
下北沢トリウッド
世田谷区代沢5-32-5 2F TEL 03-3414-0433
<http://homepage1.nifty.com/tollywood/>

下北沢駅南口
TOLLYWOOD
世田谷区代沢5-32-5 2F
南口商店街
家々の広場

発行人：関西障害者定期刊行物協会

住所：〒543-0015

大阪市天王寺区真田山2-2 東興ビル4F

編集人：河村 舟二

定価：100円